

# 家づくりの要である住宅設計を考えてみよう（その16）

## ～スキップフロア～

### 1 スキップフロアについて

スキップフロアとは、フロアの高さを半階層ずらして、中階層をつくる間取りのことです。例えば下記の平面図のよう、階段の踊り場を書斎にして、下階に KURA（収納スペース）を設けるような間取りです。そうすることで、床面積も有効に使って、かつ魅力的な空間構成が可能です。また、リビングの吹き抜けと一体的にすることで、立体的な演出ができ、遊び心ある空間にもなります。

### 2 スキップフロアのメリット

- (1) 立体的な演出ができる、遊び心ある空間になる。
- (2) 視線の抜けが良く空間に広がりを持たせることが出来る。
- (3) 風通しを良くすることができる。
- (4) 緩やかに空間をわけることができる。
- (5) 空間を有効的に使うことが出来る。
  - ① 収納スペースを増やせる。
  - ② 狹小住宅には有利。
- (6) 高低差のある土地の間取りに有効である。

※右図はリビングとパソコンスペース（書斎）を数段の階段でわけています。そうすることで、実質同じ階でありながらも別の部屋にいるような気分になれます。

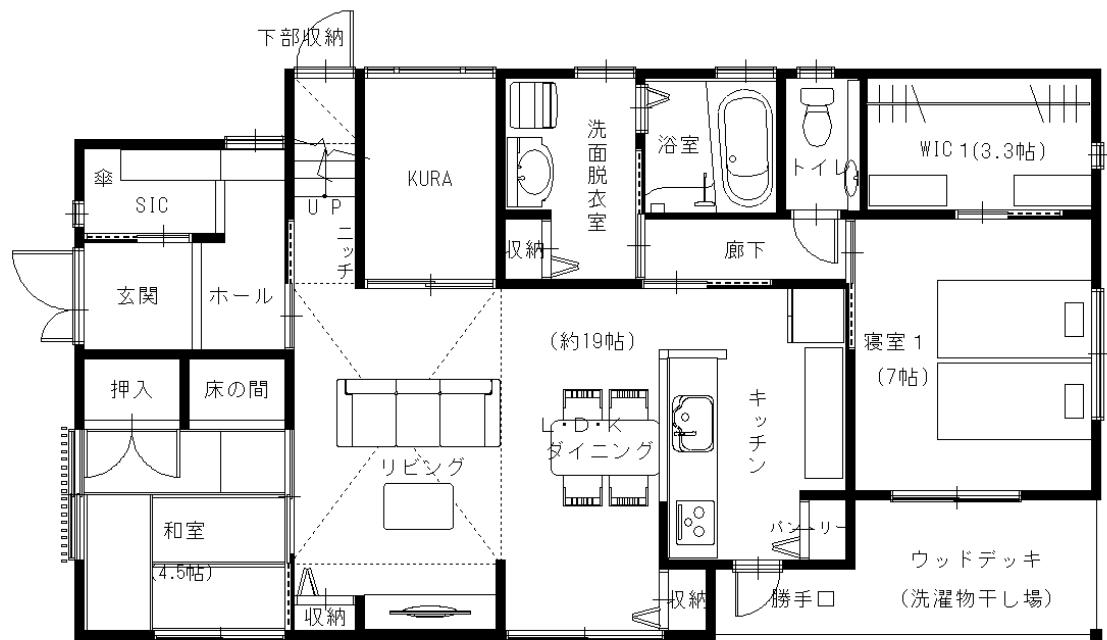


### 3 スキップフロアのデメリット

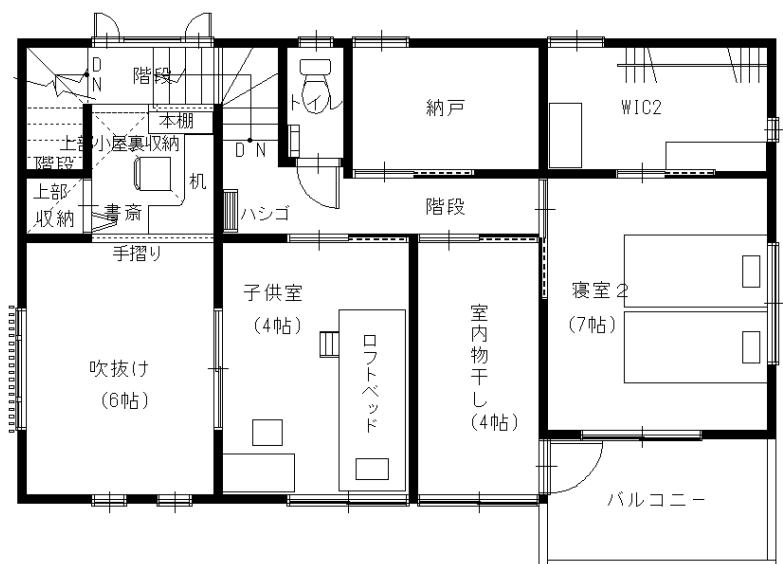
- (1) バリアフリーではない
- スキップフロアは段差をつくりますので、バリアフリーではありません。ですから、小さなお子様や高齢の方がいらっしゃるご家庭では、そのデメリットを理解した上でプランニングすることが肝要です。
- (2) 断熱・空調に配慮が必要
- スキップフロアは基本的に部屋を壁で仕切りません。そのため、熱効率が良くないと思います。ですから、床暖房方式や断熱材で建物全体を包んだ高気密・高断熱住宅など、省エネを踏まえた室内環境の在り方について考えることも必要です。

### 4 将来のことも考えてスキップフロアを計画

新築した当初は、スキップフロアが子供の遊び場にもなるし、段差もさほど気にならないかもしれません。しかし、子供が大きくなってあまり使わなくなったり、年を取って段差がきつくなることも考えられます。従って、スキップフロアの間取りは長期的なスパンでとらえて計画したいものです。



## 1 階平面図



## 2階平面図